

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25011

「学ぶ力」	
実 態	課 題
<p>成 果</p> <p>◇知的好奇心を喚起する教材化、発達段階に応じた見通しのもとせ方、具体物等の操作活動を充実させてきたことで、児童に「学ぶ楽しさ」を実感させることができています。</p> <p>◇自分との対話を重ねつつ、他者と相互に関わり合いながら、自分や集団の考えを深めていくことをねらいとした「学び合いの場」を授業の中心に位置付けたことにより、「伝え合う力」を育むことに一定の成果が見られた。</p>	<p>課 題</p> <p>◇児童アンケートにおいて「自分の考えを伝える」ことを苦手としている児童の割合は、減少傾向にはあるが、今後も継続的に「伝え合う力」を向上させていく取組が必要である。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査等の結果から、基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるとともに、考察・判断する力や表現する力（伝える力を含めて）を向上させていくことが課題である。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度 〉の現状と課題	
◇友達が「話を聞いてくれる」「自分のことを理解してくれている」と実感している児童は、増加傾向にはある。今後も、開発的生徒指導を推進して児童の「自己承認」「他者受容感」を高め、「自分の居場所となる学級風土」を築き上げていく実践を積み重ねていく必要があり、次年度は、「子どもの居場所となる学級風土」づくりを授業づくりの重点として位置付けていく。	
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
能動的に学ぶ力（生き生きと学ぶ子ども）の育成	
課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
<p>(1) 「生き生きと学ぶ子ども」＝「子どもが主役」と捉えた授業像の共有化 子どもが自らの考えを「ひろげる」、自分を他者や事象、過去の自分と「つなげる」、「たい」を原動力として「じぶんから」学び進める「ひ・つ・じ」が見える授業づくり</p> <p>(2) 子どもの能動を生む原動力となる「たい」が生まれ、「たい」がつながる授業づくり</p> <p>*事象との対話を通じて自分とのつながりを見だし、内容優位型の「たい」が生むことができる教材化</p> <p>*「学び合い」における意図的・計画的な教師のかかわり</p>	<p>①「子どもの居場所となる学級風土」づくり＝「子どもの声を聴く」を重点とした日々の教育実践</p> <p>*「子どもが主役」となる「課題探究的な学習」の推進</p> <p>*開発的生徒指導の推進</p> <p>*ハートタイム（構成的グループ・エンカウンター）を軸とした学級指導</p> <p>*学びに関するアンケートを実施・分析（年2回）</p> <p>*生徒指導係の「目指す子どもの姿」や「目指す学級風土」などの到達目標とその取組の共有化</p> <p>*互いの授業・学級指導を見合える指導体制の構築</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
◇「オクリンプラス」で個や集団における「学びの足跡」を共有できるようにする。	
◇「心の体の健康観察（シャボテンログ）アプリ」を活用して子どもの不安や悩みに即時に対応できるようにする。	

<本プログラムの実行に向けて>



